

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和5年度1月号

○ 概要

- (1) 令和5年度1月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,790億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+6.5%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,490円（伸び率▲1.7%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,821億円（伸び率+7.2%）、薬剤料が4,956億円（伸び率+6.3%）、薬剤料のうち、後発医薬品が954億円（伸び率+2.6%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,448円（伸び率▲2.7%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.81種類（伸び率+0.0%）、26.6日（伸び率▲3.2%）、73円（伸び率+0.5%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料3,898億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+203億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の717億円（伸び幅+52億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+85億円（総額335億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,898 億円 (+203 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(717 億円)	21 循環器官用薬 (548 億円)	11 中枢神経系用薬 (525 億円)
0 歳以上 5 歳未満	17.7 億円 (+0.7 億円)	44 アレルギー用薬 (5.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)	61 抗生物質製剤 (2.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	99.7 億円 (+17.7 億円)	44 アレルギー用薬 (31.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (26.6 億円)	62 化学療法剤 (11.3 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,483 億円 (+124 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(272 億円)	11 中枢神経系用薬 (268 億円)	62 化学療法剤 (171 億円)
65 歳以上 75 歳未満	821 億円 (▲14 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(183 億円)	42 腫瘍用薬 (142 億円)	21 循環器官用薬 (132 億円)
75 歳以上	1,477 億円 (+75 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(255 億円)	21 循環器官用薬 (248 億円)	42 腫瘍用薬 (194 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,490円（伸び率▲1.7%）で、最も高かったのは北海道（11,502円（伸び率▲0.9%））、最も低かったのは佐賀県（8,083円（伸び率▲2.8%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+2.1%）、最も低かったのは福井県（伸び率▲4.1%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	85.4 %	+1.6 %
薬剤料ベース	19.2 %	▲0.7 %
後発品調剤率	81.7 %	+1.0 %
（参考）数量ベース（旧指標）	60.3 %	+0.6 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.6 %	+23.2 % (10 歳以上 15 歳未満)	▲5.9 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.2 %	27.3 % (100 歳以上)	11.4 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	85.4 %	89.2 % (100 歳以上)	81.6 % (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	808 億円 (+15 億円)	21 循環器官用薬 (247 億円)	11 中枢神経系用薬 (138 億円)	23 消化器官用薬 (94 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.1 億円 (▲0.1 億円)	44 アレルギー用薬 (3.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.7 億円)	62 化学療法剤 (0.5 億円)
5 歳以上 15 歳未満	17.2 億円 (+3.0 億円)	44 アレルギー用薬 (8.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	293 億円 (+13 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	11 中枢神経系用薬 (65 億円)	44 アレルギー用薬 (35 億円)
65 歳以上 75 歳未満	168 億円 (▲8 億円)	21 循環器官用薬 (64 億円)	11 中枢神経系用薬 (20 億円)	23 消化器官用薬 (20 億円)
75 歳以上	324 億円 (+7 億円)	21 循環器官用薬 (113 億円)	11 中枢神経系用薬 (51 億円)	23 消化器官用薬 (47 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,333 円	1,746 円(北海道)	1,114 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲5.4%	▲2.9 % (福岡県)	▲7.7 % (福島県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	85.4 %	91.3 % (沖縄県)	81.6 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.2 %	22.2 % (鹿児島県)	16.9 % (京都府)
後発医薬品調剤率	81.7 %	87.0 % (沖縄県)	77.7 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	60.3 %	67.5 % (沖縄県)	56.7 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和5年度1月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。